横浜市立杉田小学校　令和5年度　学校だより　643 号　令和6年1月 31 日

希望（のぞみ）

学校ホームページアドレス　https://www.edu.city.yokohAmA.jp/sch/es/sugitA/

学校ホームページはこちら

「子を思ふ道」

副校長　　渡邊　智志

私の父は、10人兄弟の末っ子で、私には父方だけで9人の叔父叔母がいます。そのうちの3人が「1月1日生まれ」です。子どもの私が「ものすごい偶然だね」と言ったところ、父は苦笑いして「昔は誕生日なんて無かったんだ」と言いました。実は私の父も自分の誕生日を正確に知りません。それは「数え年」の風習があったからです。

「数え年」は「1月1日に、全ての人間が1つ歳を取る」というルールでした。つまり12月31日生まれの子は、生まれた日が1歳で翌日の1月1日になると2歳になります。数え7歳の4月には小学校に入学しなくてはいけません。1月1日生まれにしておけば入学を1年遅らせることが出来るので、祖父母は12月生まれの3人を1月1日生まれとして役所に届けたらしいのです。それが子どもの成長を心配してのことなのか、小さな労働力として家に置いておきたかったからなのか、そのあたりはよく分かりません。

法律では、1902年に「生まれた日を誕生日として年齢を数える」という民法が発布されましたが、終戦後の1950年に改めて「年齢の唱え方に関する法律」が出されています。当時の国民に、誕生日という考えがなかなか定着しなかったことが分かります。ただ、これには地域差があったようで、私の母方の親戚は皆、正確に誕生日が分かります。

本校では今週新入生保護者説明会を開催します。「うちの子は3月生まれだから心配で…」というお話を聞くことも少なくありません。また、生まれた月に関わらず「給食は時間内に食べられるだろうか。」「遠い道のりを歩けるだろうか。」と保護者の方が幼いお子さんを心配するのは当然のことです。学校としてサポートは行いますが、子どもたちが自分自身で乗り越えなければならないこともあります。学校では成長し課題を乗り越える子どもたちをたくさん見ることができます。しかし、成長とともに友達関係や進路選択など子どもたちの課題も変わっていきます。学校と保護者の方と情報を共有しながら子どもたちをサポートしていく所存ですが、自ら決断し自力で解決することの大切さは変わりありません。その能力が文科省の掲げる「生きる力」そのものとも言えます。さらには卒業後も、杉田小での経験を基に子どもたちが必要な能力を身につけ立派に成長してくれることを願っています。

人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道に惑ひぬるかな　　中納言兼輔

「人の親心は暗闇ではないのだが我が子を思う時には迷ってしまう」と平安時代の歌人も読んでいる通り、いつの世の中でも「子を思ふ道」に正解はないとも言えます。

今の子どもたちが大人になった時にはどんな世の中になっているのでしょうか。インターネットや AI の発達など社会の変化はより激しくなっています。これからも多様な情報にアンテナを張りながら、子どもたちの未来が豊かなものになるよう学校教育を推進してまいります。引き続き、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。